

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校アートカレッジ神戸
設置者名	学校法人 神戸学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
文化・教養 専門課程	イラストデザイン学科	夜・通信	72	7	
	通信制学科 イラストデザインコース	夜 通信	50	4	
	通信制学科 e スポーツコース	夜 通信	74	4	
	通信制学科 DX ビジネスコース	夜 通信	23	4	
	e スポーツ学科 e スポーツマネジメントコース	夜・通信	24	7	
	e スポーツ学科 プロ育成コース	夜・通信	52	7	
	DX ビジネス学科(2年制) DX ビジネスコース	夜・通信	21	7	

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校アートカレッジ神戸
設置者名	学校法人 神戸学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・授業計画書(シラバス)の作成過程について 各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が授業計画書の作成を行う。 授業計画書には授業の方法(講義、演習、実験、実習など)、授業の内容(授業科目の概要)、年間の授業の計画(授業の回数やスケジュール)、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行う。 ・授業計画書の作成、公表時期について 翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式に決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。	
授業計画書の公表方法	
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) ・単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況 各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行う。 成績評価は、各科目は 100 点満点とし、学科試験等の評価を 80%、出席状況を 20% として、教科ごとに総合的に評価する。 評価基準は、A : 100～90 点、B : 89～80 点、C : 79～70 点、D : 69～60 点、E : 59 点以下とし、D 以上を合格とする。 E 評価となった場合は再試験を実施し、60 点以上の成績を収めた場合は評価を D とし、単位を認定する。なお、再試験で 60 点未満の場合は、単位認定課題の対象となり、単位認定課題において所定の成績を収めた場合は、評価を D として単位を付与する。 専門課程における単位の授与及び高等課程における成績評価は、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、全科目を合計した出席率が 8 割に達しない者は、原則として単位の授与又は成績評価を受けることができない。また、全科目を合計した出席率が 8 割に達している場合でも、出席時数が授業時数の 8 割に達しない科目がある場合は、原則として当該科目について単位の授与又は成績評価を受けることができない。	
3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) GPA (Grade Point Average) を導入し、学内の成績評価として使用している。 GPA は学生の履修した 1 授業科目あたりの平均成績を指す。学業成績は、授業科目ごとに行う随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況によって評価される。 当校では各授業の評価を 100 点満点基準として、60 点以上を合格としている。合格者の中でも、評価点数により A : 100～90 点、B : 89～80 点、C : 79～70 点、D : 69～60 点、E : 59 点以下とし、成績が通知される。 各授業の成績評価を規定の数値に置き換え、1 授業あたりの平均成績を算出する。各成績は A (4 点)、B (3 点)、C (2 点)、D (1 点)、E (0 点) に換算する。GPA は (A の授業数×4+B の授業数×3+C の授業数×2+D の授業数×1) の合計を、各生徒が履修済みの不合格を含めた総授業数で除した数を求めることによって算出する。算出は学科ごとに行い、学科内で複数コースが存在している場合はコースごとに算出する。 成績評価方法については、HP で公開するほか、入学時オリエンテーションで学生に通知する。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

専門学校アートカレッジ神戸は教育基本法および学校教育法に基づき高等学校における教育の基礎の上に文化・教養専門課程を、中学校における教育の基礎の上に文化・教養高等課程を設置し、「あなたがいて私がいる」を基本理念として掲げ、教育に携わっている。この基本理念に基づき、豊かな人間性や国際的な視野をもった多様な価値観、社会性を育成することが本学の教育目標であり、下記に示す資質および技能を修得していることを卒業の条件とする。

- 1.専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。
- 2.自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている
- 3.論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。

本校所定の課程（修業年限 2 年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

[https://www.art-
kobe.ac.jp/information/disclosure.html](https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html)

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校アートカレッジ神戸
設置者名	学校法人 神戸学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html
財産目録	https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html
事業報告書	https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html
監事による監査報告（書）	https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	イラストデザイン学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	68 単位					
			20 単位	40 単位	14 単位		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100 人		70 人	0 人	2 人	11 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・授業計画書（シラバス）の作成過程について 各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が授業計画書の作成を行う。 授業計画書には授業の方法（講義、演習、実験、実習など）、授業の内容（授業科目の概要）、年間の授業の計画（授業の回数やスケジュール）、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行う。 ・授業計画書の作成、公表時期について 翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式に決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。

成績評価の基準・方法			
(概要) 各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行う。 成績評価は、各科目は 100 点満点とし、学科試験等の評価を 80%、出席状況を 20%として、教科ごとに総合的に評価する。 評価基準は、A : 100～90 点、B : 89～80 点、C : 79～70 点、D : 69～60 点、E : 59 点以下とし、D 以上を合格とする。 E 評価となった場合は再試験を実施し、60 点以上の成績を収めた場合は評価を D とし、単位を認定する。なお、再試験で 60 点未満の場合は、単位認定課題の対象となり、単位認定課題において所定の成績を収めた場合は、評価を D として単位を付与する。 専門課程における単位の授与及び高等課程における成績評価は、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、全科目を合計した出席率が 8 割に達しない者は、原則として単位の授与又は成績評価を受けることができない。また、全科目を合計した出席率が 8 割に達している場合でも、出席時数が授業時数の 8 割に達しない科目がある場合は、原則として当該科目について単位の授与又は成績評価を受けることができない。			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 進級は取得総単位数 34 以上 卒業は修行年限 2 年以上、取得総単位数 68 以上とする。 下記に示す資質および技能を修得していることを卒業の条件とする。 1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。 2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている 3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。 本校所定の課程（修業年限 2 年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している。			
学修支援等			
(概要) 個々の個性を生かした授業を行うことで、学生それぞれの能力や適性を育成し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、校外学習や研修旅行を通じ、様々な芸術の世界に触れることで、学生の感性を磨き作品制作に繋がるよう教育指導を行っている。また、目指す業界で必要とされる資格を計画的に取得ができるよう取り組ませている。			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
25 人 (100%)	1 人 (4%)	14 人 (56%)	10 人 (40%)

(主な就職、業界等) 印刷業、建設業、医療、一般企業、一般企業のデザイン部署
(就職指導内容) 1 年次前期より学生に対し進路面談を行いそれぞれの就職希望先などを聞き取り、授業を通して現場で必要なスキルを身につけさせている。担任と担当職員で学生情報を共有し、就職したい企業、希望職種などを把握した上で学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。
(主な学修成果（資格・検定等）) Illustrator クリエイター能力検定試験、Photoshop クリエイター能力検定試験
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59 人	4 人	6.8%
(中途退学の主な理由) 修学意欲低下のため学業継続が困難になったため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生、保護者との面談を繰り返し行い本人が何を望んでいてどうすれば続けることが出来るかの聞き取りを行い可能な限り続けられる環境を提供。 金銭的な問題の場合は奨学金担当による説明も実施。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
文化・教養		専門課程	通信制学科 イラストデザインコース		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	72 単位	28 単位	42 単位	12 単位			
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
90 人の内数		37 人	0 人	3 人	2 人		5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) ・授業計画書（シラバス）の作成過程について 各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が授業計画書の作成を行う。

授業計画書には授業の方法（講義、演習、実験、実習など）、授業の内容（授業科目の概要）、年間の授業の計画（授業の回数やスケジュール）、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行う。 ・授業計画書の作成、公表時期について 翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式に決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。
成績評価の基準・方法 （概要） 各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行う。 成績評価は、各科目は 100 点満点とし、学科試験等の評価を 80%、出席状況を 20%として、教科ごとに総合的に評価する。 評価基準は、A：100～90 点、B：89～80 点、C：79～70 点、D：69～60 点、E：59 点以下とし、D 以上を合格とする。 E 評価となった場合は再試験を実施し、60 点以上の成績を収めた場合は評価を D とし、単位を認定する。なお、再試験で 60 点未満の場合は、単位認定課題の対象となり、単位認定課題において所定の成績を収めた場合は、評価を D として単位を付与する。 専門課程における単位の授与及び高等課程における成績評価は、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、全科目を合計した出席率が 8 割に達しない者は、原則として単位の授与又は成績評価を受けることができない。また、全科目を合計した出席率が 8 割に達している場合でも、出席時数が授業時数の 8 割に達しない科目がある場合は、原則として当該科目について単位の授与又は成績評価を受けることができない。
卒業・進級の認定基準 （概要） 進級は取得総単位数 36 以上 卒業は修行年限 2 年以上、取得総単位数 72 以上とする。 下記に示す資質および技能を修得していることを卒業の条件とする。 1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。 2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている 3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。 本校所定の課程（修業年限 2 年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している。
学修支援等 （概要） 個別指導型の授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、オンライン授業やスクーリング（対面授業）を通してより専門的な教育指導を行っている。
卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
13 人 (100%)	1 人 (8%)	1 人 (8%)	11 人 (84%)
(主な就職、業界等) 印刷会社			
(就職指導内容) 1 年次前期より学生に対し進路面談を行いそれぞれの就職希望先などを聞き取り、授業を通して現場で必要なスキルを身につけさせている。担任と担当職員で学生情報を共有し、就職したい企業、希望職種などを把握した上で学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。			
(主な学修成果 (資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	8 人	29.6%
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應・修学意欲低下のため学業継続が困難になったため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生、保護者との面談を繰り返し行い本人が何を望んでいてどうすれば続けることが出来るかの聞き取りを行い可能な限り続けられる環境を提供。 金銭的な問題の場合は奨学金担当による説明も実施。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	通信制学科 e スポーツコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	74 単位	12 単位	58 単位	0 単位		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人の内数		20 人	0 人	2 人	3 人	5 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)

(概要) ・授業計画書（シラバス）の作成過程について 各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が授業計画書の作成を行う。 授業計画書には授業の方法（講義、演習、実験、実習など）、授業の内容（授業科目の概要）、年間の授業の計画（授業の回数やスケジュール）、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行う。 ・授業計画書の作成、公表時期について 翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式に決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。
成績評価の基準・方法
(概要) 各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行う。 成績評価は、各科目は 100 点満点とし、学科試験等の評価を 80%、出席状況を 20%として、教科ごとに総合的に評価する。 評価基準は、A：100～90 点、B：89～80 点、C：79～70 点、D：69～60 点、E：59 点以下とし、D 以上を合格とする。 E 評価となった場合は再試験を実施し、60 点以上の成績を収めた場合は評価を D とし、単位を認定する。なお、再試験で 60 点未満の場合は、単位認定課題の対象となり、単位認定課題において所定の成績を収めた場合は、評価を D として単位を付与する。 専門課程における単位の授与及び高等課程における成績評価は、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、全科目を合計した出席率が 8 割に達しない者は、原則として単位の授与又は成績評価を受けることができない。また、全科目を合計した出席率が 8 割に達している場合でも、出席時数が授業時数の 8 割に達しない科目がある場合は、原則として当該科目について単位の授与又は成績評価を受けることができない。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級は取得総単位数 35 以上 卒業は修行年限 2 年以上、取得総単位数 74 以上とする。 下記に示す資質および技能を修得していることを卒業の条件とする。 1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。 2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている 3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。 本校所定の課程（修業年限 2 年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している。
学修支援等

(概要) 個別指導型の授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、オンライン授業やスクーリング（対面授業）を通してより専門的な教育指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12 人 (100%)	0 人 (0%)	5 人 (42%)	7 人 (58%)
(主な就職、業界等) 飲食業、製造業、一般企業			
(就職指導内容) 1 年次前期より学生に対し進路面談を行いそれぞれの就職希望先などを聞き取り、授業を通して現場で必要なスキルを身につけさせている。担任と担当職員で学生情報を共有し、就職したい企業、希望職種などを把握した上で学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	1 人	3.7%
(中途退学の主な理由) 修学意欲低下のため学業継続が困難になったため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生、保護者との面談を繰り返し行い本人が何を望んでいてどうすれば続けることが出来るかの聞き取りを行い可能な限り続けられる環境を提供。 金銭的な問題の場合は奨学金担当による説明も実施。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養		専門課程	通信制学科 DX ビジネスコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	72 単位	48 単位	24 単位	0 単位		

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
90 人の内数	1 人	0 人	8 人	0 人	8 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・授業計画書（シラバス）の作成過程について 各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が授業計画書の作成を行う。 授業計画書には授業の方法（講義、演習、実験、実習など）、授業の内容（授業科目の概要）、年間の授業の計画（授業の回数やスケジュール）、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行う。 ・授業計画書の作成、公表時期について 翌年度の講義予定は 1 月～2 月に担当教員が作成し、3 月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式に決定する。その後、4 月に今年度分の授業計画書を HP 上に公開する。
成績評価の基準・方法
（概要） 各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行う。 成績評価は、各科目は 100 点満点とし、学科試験等の評価を 80%、出席状況を 20%として、教科ごとに総合的に評価する。 評価基準は、A：100～90 点、B：89～80 点、C：79～70 点、D：69～60 点、E：59 点以下とし、D 以上を合格とする。 E 評価となった場合は再試験を実施し、60 点以上の成績を収めた場合は評価を D とし、単位を認定する。なお、再試験で 60 点未満の場合は、単位認定課題の対象となり、単位認定課題において所定の成績を収めた場合は、評価を D として単位を付与する。 専門課程における単位の授与及び高等課程における成績評価は、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、全科目を合計した出席率が 8 割に達しない者は、原則として単位の授与又は成績評価を受けることができない。また、全科目を合計した出席率が 8 割に達している場合でも、出席時数が授業時数の 8 割に達しない科目がある場合は、原則として当該科目について単位の授与又は成績評価を受けることができない。
卒業・進級の認定基準
（概要） 進級は取得総単位数 36 以上 卒業は修行年限 2 年以上、取得総単位数 72 以上とする。 下記に示す資質および技能を修得していることを卒業の条件とする。 1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。 2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている 3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。

本校所定の課程（修業年限２年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している。
学修支援等
（概要） 個別指導型の授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、オンライン授業やスクーリング（対面授業）を通してより専門的な教育指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4 人 (100%)	0 人 (0%)	1 人 (25%)	3 人 (75%)
（主な就職、業界等） 一般企業			
（就職指導内容） 1 年次前期より学生に対し進路面談を行いそれぞれの就職希望先などを聞き取り、授業を通して現場に必要なスキルを身につけさせている。担任と担当職員で学生情報を共有し、就職したい企業、希望職種などを把握した上で学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	専門課程	e スポーツ学科 e スポーツマネジメン トコース	○	
修業	昼夜	全課程の修了に必要な総	開設している授業の種類	

年限		単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	66 単位	56 単位	12 単位	2 単位		
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	1 人	0 人	6 人	5 人	11 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・授業計画書（シラバス）の作成過程について 各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が授業計画書の作成を行う。 授業計画書には授業の方法（講義、演習、実験、実習など）、授業の内容（授業科目の概要）、年間の授業の計画（授業の回数やスケジュール）、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行う。 ・授業計画書の作成、公表時期について 翌年度の講義予定は 1 月～2 月に担当教員が作成し、3 月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式に決定する。その後、4 月に今年度分の授業計画書を HP 上に公開する。
成績評価の基準・方法
（概要） 各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行う。 成績評価は、各科目は 100 点満点とし、学科試験等の評価を 80%、出席状況を 20%として、教科ごとに総合的に評価する。 評価基準は、A：100～90 点、B：89～80 点、C：79～70 点、D：69～60 点、E：59 点以下とし、D 以上を合格とする。 E 評価となった場合は再試験を実施し、60 点以上の成績を収めた場合は評価を D とし、単位を認定する。なお、再試験で 60 点未満の場合は、単位認定課題の対象となり、単位認定課題において所定の成績を収めた場合は、評価を D として単位を付与する。 専門課程における単位の授与及び高等課程における成績評価は、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、全科目を合計した出席率が 8 割に達しない者は、原則として単位の授与又は成績評価を受けることができない。また、全科目を合計した出席率が 8 割に達している場合でも、出席時数が授業時数の 8 割に達しない科目がある場合は、原則として当該科目について単位の授与又は成績評価を受けることができない。
卒業・進級の認定基準
（概要） 進級は取得総単位数 33 以上 卒業は修行年限 2 年以上、取得総単位数 66 以上とする。 下記に示す資質および技能を修得していることを卒業の条件とする。 1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。

2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている 3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。
本校所定の課程（修業年限２年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している。
学修支援等
（概要） 個々の個性を生かした授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、校外学習や研修旅行を通じ、業界人との交流や現場を在学中に触れ、経験させることで学生の目標設定をより明確かつ具体的に設定させる教育指導を行っている。また、目指す業界で必要とされる資格を計画的に取得ができるよう取り組ませている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 1 年次前期より学生に対し進路面談を行いそれぞれの就職希望先などを聞き取り、授業を通して現場で必要なスキルを身につけさせている。担任と担当職員で学生情報を共有し、就職したい企業、希望職種などを把握した上で学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） 2025 年度卒業生がいないため、卒業者数、進学者数、就職者数、主な就職先、業界の記載はしない			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	e スポーツ学科 プロ育成コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	66 単位	50 単位	14 単位	2 単位		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		13 人	0 人	2 人	4 人	6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） ・授業計画書（シラバス）の作成過程について 各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が授業計画書の作成を行う。 授業計画書には授業の方法（講義、演習、実験、実習など）、授業の内容（授業科目の概要）、年間の授業の計画（授業の回数やスケジュール）、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行う。 ・授業計画書の作成、公表時期について 翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式に決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行う。 成績評価は、各科目は 100 点満点とし、学科試験等の評価を 80%、出席状況を 20%として、教科ごとに総合的に評価する。 評価基準は、A：100～90 点、B：89～80 点、C：79～70 点、D：69～60 点、E：59 点以下とし、D 以上を合格とする。 E 評価となった場合は再試験を実施し、60 点以上の成績を収めた場合は評価を D とし、単位を認定する。なお、再試験で 60 点未満の場合は、単位認定課題の対象となり、単位認定課題において所定の成績を収めた場合は、評価を D として単位を付与する。 専門課程における単位の授与及び高等課程における成績評価は、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、全科目を合計した出席率が 8 割に達しない者は、原則として単位の授与又は成績評価を受けることができない。また、全科目を合計した出席率が 8 割に達している場合でも、出席時数が授業時数の 8 割に達しない科目がある場合は、原則として当該科目について単位の授与又は成績評価を受けることができない。	
卒業・進級の認定基準	

(概要) 進級は取得総単位数 33 以上 卒業は修行年限 2 年以上、取得総単位数 66 以上とする。 下記に示す資質および技能を修得していることを卒業の条件とする。 1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。 2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている 3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。 本校所定の課程（修業年限 2 年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している。
学修支援等
(概要) 個々の個性を生かした授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、校外学習や研修旅行を通じ、業界人との交流や現場を在学中に触れ、経験させることで学生の目標設定をより明確かつ具体的に設定させる教育指導を行っている。また、目指す業界で必要とされる資格を計画的に取得ができるよう取り組ませている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 1 年次前期より学生に対し進路面談を行いそれぞれの就職希望先などを聞き取り、授業を通して現場で必要なスキルを身につけさせている。担任と担当職員で学生情報を共有し、就職したい企業、希望職種などを把握した上で学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項） 2025 年度卒業生がいないため、卒業生数、進学者数、就職者数、主な就職先、業界の記載はしない			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%

(中途退学の主な理由)
(中退防止・中退者支援のための取組)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	DX ビジネス学科(2年制) DX ビジネスコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位	18 単位	36 単位	12 単位		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人		3 人	0 人	19 人	2 人	21 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・授業計画書（シラバス）の作成過程について 各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が授業計画書の作成を行う。 授業計画書には授業の方法（講義、演習、実験、実習など）、授業の内容（授業科目の概要）、年間の授業の計画（授業の回数やスケジュール）、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行う。 ・授業計画書の作成、公表時期について 翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式に決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。
成績評価の基準・方法
（概要） 各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行う。 成績評価は、各科目は100点満点とし、学科試験等の評価を80%、出席状況を20%として、教科ごとに総合的に評価する。 評価基準は、A：100～90点、B：89～80点、C：79～70点、D：69～60点、E：59点以下とし、D以上を合格とする。 E評価となった場合は再試験を実施し、60点以上の成績を収めた場合は評価をDとし、単位を認定する。なお、再試験で60点未満の場合は、単位認定課題の対象となり、単位認定課題において所定の成績を収めた場合は、評価をDとして単位を付与する。 専門課程における単位の授与及び高等課程における成績評価は、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、全科目を合計

した出席率が 8 割に達しない者は、原則として単位の授与又は成績評価を受けることができない。また、全科目を合計した出席率が 8 割に達している場合でも、出席時数が授業時数の 8 割に達しない科目がある場合は、原則として当該科目について単位の授与又は成績評価を受けることができない。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級は取得総単位数 31 以上 卒業は修年年限 2 年以上、取得総単位数 62 以上とする。 下記に示す資質および技能を修得していることを卒業の条件とする。 1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。 2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている 3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。 本校所定の課程（修業年限 2 年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している。
学修支援等
(概要) 個別指導型の授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、校外学習や研修旅行を通じ、業界人との交流や現場を在学中に触れ、経験させることで学生の目標設定をより明確かつ具体的に設定させる教育指導を行っている。また、目指す業界で必要とされる資格を計画的に取得ができるよう取り組ませている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
4 人 (100%)	0 人 (0%)	4 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 建設業、製造業、一般企業			
(就職指導内容) 1 年次前期より学生に対し進路面談を行いそれぞれの就職希望先などを聞き取り、授業を通して現場で必要なスキルを身につけさせている。担任と担当職員で学生情報を共有し、就職したい企業、希望職種などを把握した上で学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

②学校単位の情報

a) 「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
イラストデザイン学科	100,000 円	990,000 円	530,000 円	
通信制学科	100,000 円	294,000 円	156,000 円	
DX ビジネス学科	100,000 円	990,000 円	530,000 円	
e スポーツ学科	100,000 円	990,000 円	530,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html		
第三者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
(Ⅰ) 学校に学校自己評価委員会を設置し、教職員が連携して評価活動を行う。 (Ⅱ) 評価は、学校自己評価委員会が作成した評価表に基づいて行う。 (Ⅲ) 評価結果は、学校関係者評価委員会において評価項目の達成度についての点検を行う。 委員会での点検をもとに各事項についての分析・考察を行い、今後の課題と改善策を示した報告書を纏め、HP等で公開し、教育活動・学校運営の質向上をはかる。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
公認会計士	2026/4/1～2028/3/31	企業等委員
民間企業	2026/4/1～2028/3/31	企業等委員
卒業生	2026/4/1～2028/3/31	卒業生

卒業生	2026/4/1～2028/3/31	卒業生
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html		
(備考)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html
--